

研究・調査報告書

報告書番号	担当
77	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption and cardiovascular mortality accounting for possible misclassification of intake: 11-year follow-up of the Melbourne Collaborative Cohort Study. 誤分類の可能性を考慮したアルコール消費量と心血管死亡率の関連 メルボルン 共同研究のコホート研究の11年間の追跡調査より</p>	
執筆者	
Harriss LR, English DR, Hopper JL, Powles J, Simpson JA, O'Dea K, Giles GG, Tonkin AM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2007 Oct;102(10):1574-85.	
キーワード	
アルコール、飲酒の種類、心血管疾患、冠動脈疾患、死亡率、前向きコホート研究	
要旨	
<p>目的： 日常の飲酒量と飲酒の種類、頻度と、心血管疾患 (CVD)、冠動脈疾患 (CHD) 死亡率との関係について摂取量の組織的誤分類について調査すること。</p> <p>デザイン： 平均 11.4 年追跡したオーストラリアのメルボルンの共同研究における前向きコホート研究。</p> <p>対象： 1990 年から 1994 年をベースラインとし、40 歳から 69 歳までの 38200 人のボランティア (内、女性 23044 人)。</p> <p>方法： 飲み物の種類や量、頻度を自己申告制の質問紙を用いて、前の週の調査をした。</p> <p>結果： 寿命を比較すると、日常の飲酒は心血管疾患や冠動脈疾患の死亡率を女性では下げる傾向にあったが、男性ではそうではなかった。女性で 20g/日以下の飲酒では心血管疾患のハザード比は 0.43 (0.19-0.95 P 値 0.18) で冠動脈疾患ではハザード比は 0.19 (0.05-4.41 P 値 0.24) であった。男性では 2 倍で心血管疾患の死亡率は [HR = 2.58 (1.51-4.41)] 冠動脈疾患では冠動脈疾患 CHD [HR = 2.91 (1.59-5.33)] であった。 ワインは女性において死亡率を下げる唯一の飲み物であった。ベースライン時にお酒を飲まなかった集団は飲酒した集団に比較して、心血管疾患や冠動脈疾患の死亡率を男性では下げたが、女性では下げなかった。1 週間に 6～7 日飲酒する男性集団は心血管疾患で 0.49 (0.29-0.81; P trend = 0.02)、冠動脈疾患 (0.26-0.92; P trend = 0.23) であった。</p> <p>まとめ： 日常の飲酒は女性においては心血管疾患や冠動脈疾患の死亡率を下げることに関与するが、男性では関与しなかった。アルコールの有用性はワインからのみ示唆されたが、種類の比較は出来なかった。飲酒頻度は男性においては心血管疾患や冠動脈疾患による死亡に逆相関があるが、女性ではなかった。</p>	